【別紙様式Ⅰ】 令和7年度　学校評価報告書

学校名　厚木市立依知南小 学校

校長名　笠　昇

厚木市教育委員会の基本目標	1　自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2　自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3　変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

学校教育目標	学校経営の方針
◎自ら学びよく考える子 ◎心豊かでやさしい子 ◎健康でたくましい子	◎すべての子どもが大切にされ、心地よい居場所があり、安心して学ぶことのできる「インクルーシブな学校づくり」を基盤とした学校経営

今年度の重点目標

（1）主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上＜知＞　（2）多様な個性を認め合う豊かな心の育成＜徳＞
（3）健やかな心身の育成と、安心・安全で地域に開かれた学校＜体・安・開＞　（4）機能的で効果的な学校管理＜管＞

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
児童の基礎的・基本的な知識や技能の習得	1	学力upチャレンジ週間の内容を改善 GIGAスクール端末の活用	昨年度後半から内容の改善に取り組んだ学力up！チャレンジ週間や朝学習の取組を継続し、学校での学習と家庭での学習の繋がりを保護者・児童共に意識できるようになってきている。定着させていくことが今後の課題である。	学力up！チャレンジ週間や朝学習の内容と校内研究との連携を再検討し、児童に必要な内容や方法を試していく。
個に応じた支援の充実	2	校内教育支援センターの立ち上げ スクールカウンセラーやこころスマイル支援員など、学校での支援体制の整備	校内教育支援センターの土台づくりができた。よりよい運営と活用のために、人の配置や活用方法を見直していく必要がある。	必要な支援に応じた教室や人の配置、有効な活用方法について今年度の実績をもとにブラッシュアップしていく。
児童の公共心、規範意識の育成	2・3	学校や社会のルールの必要性等をその都度子どもと教員で一緒に確認	毎年、継続的に具体的な場面を挙げながら指導できている。地域からの声なども反映させて指導できた。子ども達が継続的に意識し、自分の判断で実行できるようにすることが課題。	公共のルールやマナー・相手意識の必要性を実感できるように具体的な場面を想定して指導を繰り返していく。共生していく意識を育てる。
地域・保護者や人材の教育力を生かした学習の充実	3	交通安全教室や昔遊び、地域にまつわる講話など、学年に応じた取組の実施	地域の特性を生かした学習が毎年継続してできている。児童が地域との繋がりを感じ、地域を大切にしたいという気持ちが育ってきている。地域の方も大変協力的である。地域との繋がりを絶やさず継続していくことが課題である。	今年度の取組の継続と、より多くの学年で地域とのかかわりをもてるような計画の立案をしていく。
家庭と連携した児童指導	2・3	教育相談の実施。家庭への迅速な連絡	年2回の教育相談（5月と12月）で保護者と児童について共有できている。また、決められた機会以外にも必要に応じて面談を行ったり、電話や連絡帳等を通してこまめに連絡を取り合ったりしている。必要に応じて、担任以外（スクールカウンセラーやコーディネーター等）との繋がりや外部関係機関との連携もよりスムーズにもてるようにしていきたい。	今年度同様家庭との密な連絡を継続すると共に、外部関係機関との連携、校内支援センターの活用等とも繋げていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

校舎改築などの変化に柔軟に対応し、地域と協働して学校運営を進めている。今後も、多様性に柔軟に対応していってほしい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

安心・安全な学校づくりを学校、保護者、地域とともに理解しながらすすめてきた。
地域との密着度が高く、地域の特性を生かした学校行事や運営ができている。校舎建替え工事の進む中、児童の学びや喜びにつながる行事を維持するためにもより一層の連携と相互理解を図っていきたい。また、児童が自ら地域に愛着をもち、よりよい街にしていこうとする気持ちをさらに醸成したい。